

INTERVIEW

阪大生の約8割は運動不足!!

奮闘する「スポーツ・健康教育部門」を学生が取材

スポーツ・健康教育部門に所属している専任教員は5名。加えて医学系研究科10名、非常勤講師15名の教員によって、1年間173コマの健康・スポーツ教育科目の授業を開講しています。約3,400人の新入生全員に運動・スポーツの効果と価値観ならびに健康の保持増進への知識を提供するため、学部毎に同じコマの中で内容の異なる授業を複数開講するという過密スケジュール。そのため、例えば雨の日や、暑い夏の日中など、屋外運動場での実施が難しい時に一番困るのが、授業場所の確保とのこと。

授業以外にも、スポーツ・健康教育部門では、学生の健康理解やヘルスリテラシーなどの健康教育にも力を入れています。特に、毎年実施している「大学生のライフスタイルに関するWebアンケート」では、3,000名を超える学生の回答を得ており、その結果、阪大生の78.5%は運動不足の状態にあることが明らかになっています。部門長の小松先生は、「学生とにかく心身の健康を管理すべく、運動をしてほしい」と熱く語ります。そのため、部門としても、より授業を魅力的にするた



▲インタビューを受ける小松部門長

めにFDを適宜開催し、新たな教授技術の導入にも積極的に取り組んでいます。さらに産学共創計画として、CSC (Cyber Sports Complex)が進められることになり、運動・スポーツ環境の充実、発展が期待されています。

また、教職員、地域住民を対象にしたスポーツ教室等を年間9コース(子どもたちのためのトランポリン教室、健康太極拳、ノルディック・ウォーキング、フラダンスセミナー、親子体操、バレーボール教室、テーピング講習会、まちかねふれあいひろば(親子体操)、高校剣道招待試合)を開催しており、今年度は新たに「日本刀鑑賞」の開催を予定しているとのこと。 「なぜ大学にも体育があるの?」と、学生同士でもよく話をすることがあります。しかし、運動、スポーツは大事だとは思いつつ、実際にはなかなか自発的に始めることができません。そのスポーツの機会を広く提供する大事な役割を、スポーツ・健康教育部門は担っています。「大学生にも体育教育は必要。」小松先生のお話を聞いて、私自身もこの結論に至りました。



大学生のライフスタイルに関するWebアンケートの結果▶

▲複雑に組まれた授業スケジュール

健康・スポーツ教育科目 実施
大学生のライフスタイルに関するWebアンケート 集計結果
平成28年度 第1 semester

Contents▶▶▶▶▶

- P1 ・阪大生の約8割は運動不足!! 奮闘する「スポーツ・健康教育部門」を学生が取材
・今回取材してくれた学生はこの人!
- P2 ・スポーツ・健康教育部門の基礎セミナーに潜入
・Pickup! 教えて先生!
- P3 ・イベント報告
・授業に役立つアプリ
- P4 ・機構ウェブサイトのつかいどころ
・株式会社エヌエフ回路設計ブロック様から実験装置をご寄贈いただきました

今回取材してくれた学生はこの人!



人間科学部3年 白石沙織さん

一言で言うと、とても楽しかったです!今回、取材を通して機構の先生方の熱い思いに触れ、阪大をさらに魅力的に感じられるようになりました。ありがとうございました!

※P2、P3にも、白石さんが取材した記事が掲載されています。ぜひご覧ください。

スポーツ・健康教育部門の基礎セミナーに



スポーツ・健康教育部門が提供する基礎セミナー「実践スポーツ・運動科学」は、5人の先生がそれぞれの専門に触れながら進めるオムニバス型の授業です。各先生の専門に合わせて、解剖学・武道論・バレーボール・ラグビー・ヨガなど、様々な内容を1つの授業の中で体験することができます。学生にとっては、少人数制のため先生との距離も近く、先生の専門に触れることの出来るめったにない学びの機会になっています。

もう一つの紹介したい授業は、小島理永講師の「コンテンポラリーダンス入門」。履修希望者多数の人気科目で、授業支援ソフト(P3「授業に役立つアプリ」参照)を活用し、音楽や動画、写真、詩などを共有することで、作品のイメージやテーマを追求するなど、画期的な取り組みに挑戦しています。また、ドイツ人の先生方からの指示に従って踊りを創作するなど、ビデオ通話を用いたドイツとの遠隔授業も、学生にとってとても貴重な経験となっています。バイタリティ溢れる先生の新たな挑戦が楽しみです。



▲ヨガの授業風景



▲より良い表現を求めて練習に励む学生達



▲決めポーズにも個性が出る



Pickup!

教えて先生!

健康・スポーツ教育部門長 小松 敏彦 教授



▲写真1

インタビュー記事で登場した小松先生は「ヒト骨格筋の形態に関する研究」の専門家。日常の動作からプロのスポーツ選手の動きまで、小松先生は人体の仕組みを筋レベルで分かりやすく解説していただきます。そんな小松先生からの「人体クイズ」! 詳しい解説入りの答えは機構のホームページに掲載中です。

Q

写真1に示すように、顔の前で両手指の腹を合わせてから、両中指を折り曲げて第2関節部をしっかりと付けて、指背の橋になる部分が直線になるようにして下さい。この状態で、親指、人差し指、小指を順に離してみして下さい。…はい、では薬指も離してみましょう。どうですか? 横にずらすのはダメですよ?…難しいですね。これは一般的に困難な構造になっています。しかし、稀に薬指を離せる(よく動かせる)人がいます。ということは、もともとそういう構造なのか、後からそう変わったのか、はて、さて?

答え・詳しい解説はこちらから→→→→

<http://osku.jp/t0657>



イベント報告

クラス代表懇談会

クラス代表懇談会は、学部ごとに編成されるクラスの代表学生と機構の専任教員・職員が、今の学生が抱く問題意識を共有するためのイベントです。1回生を対象に、年2回行っています。今年度第一回目の懇談会は、6月16日(金)の昼休みに開催しました。

当日、授業に関して、CLEでの授業資料の共有を望む声が多く上がりました。特に、パワーポイント等の時はノートが間に合わないの、資料を入手できれば復習がしやすいとのこと。また、学生主体の授業を望む意見も複数寄せられました。履修や学修環境への要望だけでなく、通学時のマナーや固定的な価値観など、自分たち学生自身への疑問も呈されました。

当日の意見および事前アンケートの集計結果は、ウェブにて公開しています。ぜひご覧いただき、今後の授業計画や学生対応にお役立てください。

参考 URL

<http://osku.jp/b0340>



理系女子高生向けイベント

平成29年6月3日(土)13時～17時に、サイエンス・コモンズ、ステューデント・コモンズを中心に、理系進学を考えている女子中高生向けイベント『のぞいてみよう！理系女子の「いま」—SciTech Girls in Handai—』が開催されました。このイベントは、理系で学ぶことの楽しさや理系の魅力、理系学生の将来のキャリアが有望であることを知ってもらい、女子中高生の理系進路選択を応援するため、男女協働推進センター主催、機構の高大接続オフィス共催で、大阪大学として初めて開催したイベントです。当日は180名を超える女子中高生と60名を超える保護者や引率教員が来校され、遠くは高知県や愛知県などからお越し頂きました。ダイキン工業等、有名企業も6社参加し、「聞いてみよう！女子トーク」、「触れてみよう！理系女子の現場 企業ブース」、「触れてみよう！理系女子の現場 阪大ブース」など、5つの企画を実施、どれも非常に好評でした。



女子高校生に説明する阪大の女子院生

留学生見学旅行

6月3日(土)に奈良県奈良市への留学生見学旅行が実施されました。道中のバスの中では参加学生22名全員の自己紹介など、打ち解けた雰囲気の中、奈良国立博物館に到着しました。博物館では「なら仏像館」の展示を見学し、学生たちは日本文化への強い興味を示していました。昼食に湯豆腐定食をいただいた後は、東大寺の南大門と大仏殿の見学。金剛力士像の迫力や大仏の大きさに皆感動していたようです。最後に、奈良商工会議所にて奈良の伝統産業「にぎり墨」を体験しました。生の墨は暖かく柔らかい感触で、自分の手の型や指紋の付いた、世界にただ1つの墨を作りました。学生たちはお互いの墨を見比べるなどして、非常に盛り上がりました。



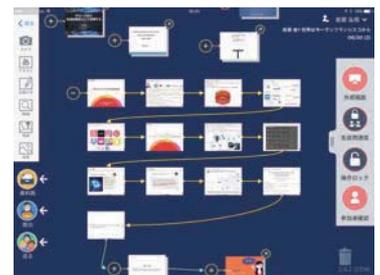
授業に役立つアプリ

教育学習支援部では、iPadが利用できる教室(HALC)を設置し、学生の主体的・対話的学びを実現できる環境を整えています。HALCの授業支援ツール「ロイロノート・スクール」は、カードに手書きで絵や文字を記入してオンラインでやりとりしたり、講義資料(写真やPDF、Webページ)を送受信したり、カードに音声を録音してスライドショーを作成したり、ビデオを撮影して共有したりと様々なアクティビティに利用できます。このアプリはiPhoneやAndroid端末などでも使えるため、HALC以外の教室や大講義室などでも活用されています。

お問い合わせは教育学習支援部
(office@tlsc.osaka-u.ac.jp)まで

教育学習支援部 岩居 弘樹 教授

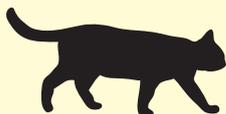
ロイロノート
SCHOOL



ロイロノート・スクールの詳細はこちらから→→

URL <https://n.loilo.tv/ja/>

機構のツボ



<http://www.celas.osaka-u.ac.jp/>

機構ウェブサイトの つかいどころ

押さな
あかん!

今日の授業は何時からだった? 今学期の教室はどこ? 教育への支援ってあるのかな。イベントを開催するんだけど、会場へのアクセスをどうやって説明しよう……。先生方のお悩みに役立つページを目指して、日々更新中です。その中身をご紹介します。

学生向け情報

学生向けのイベントやお知らせを掲載。横断型教育、TA など高年次学部生・大学院生向けの情報もここから

全学共通教育科目

履修登録の手続き方法、年間スケジュール、授業時間、学部・学科ごとの時間割やシラバス一覧を確認できます



施設利用・アクセス

- アクセッスルート
- フロアマップ
- 学生・コモンズ、サイエンス・コモンズ
- 無線LAN

学生・コモンズ、サイエンス・コモンズ
一部の部屋は貸し切り利用可
利用方法や備品の情報はここ!

機構概要

機構の組織や、機構が刊行した学術誌や教科書を紹介



取り組み

全学共通教育科目に関する調査、多様な教育の展開など、機構の取り組みを紹介。教育支援の情報が盛りだくさんの「大阪大学教育学習支援コモンズ」へのリンクもあります



CELAS NEWS

Donations

全学教育推進機構へ 株式会社エヌエフ回路設計ブロック様から 実験装置60台をご寄贈いただきました



佐藤機構長(左)より松澤所長に感謝状を贈呈

この度、株式会社エヌエフ回路設計ブロック様(本社:神奈川県横浜市)より、大阪大学の教育環境の充実に資するよう、全学教育推進機構へ実験装置60台(デジタルファンクションジェネレータ・DF1906)をご寄贈いただきました。

贈呈式は平成29年7月13日(金)に株式会社エヌエフ回路設計ブロック様から高橋常夫代表取締役社長の代理として、同社大阪営業所所長の松澤英志様、同営業所の山野大輔様、武田潤様が出席され、全学教育推進機構にて執り行われました。全学教育推進機構では、ご寄贈いただいた実験装置を、カリキュラム改革に伴った全学教育で大いに活用させていただく予定としています。

編集後記

学生が取材・編集に初めて参加した記念すべき第2号。「『人の顔が見える』紙面づくり」を目指し、今後も盛り上げていきます!第3号をお楽しみに。(プランツ)
おトクな情報が詰まっています。みんな見てね。(パスリコ)

ニュースターへのご意見・ご感想・ご要望はこちらまで
public-relations@celas.osaka-u.ac.jp

